

地域創生のための経済分析・活用支援事業

資一総政1

企画調整課 内線3312



【予算額 12,000千円】

趣旨・目的

- 地方創生における住民参加の有効なツールである地域経済分析システム（RESAS）の活用促進を図り、滋賀の地域創生につなげるため、本県の実情に応じたRESAS活用事例等の作成や民間向けのRESAS研修等を実施する。

本県の実情に応じた分析・活用事例等の作成

本県の状況について分析、併せてRESAS等統計資料の活用事例を作成

【分析例】

・「人口減少を見据えた豊かな滋賀づくり総合戦略」で重点的に取り組むこととしている「次世代のための成長産業創出プロジェクト」、「滋賀の素材・魅力磨き上げプロジェクト」等のプロジェクトを推進するため産業、交流人口等に関する分析

・TPPの県内への影響やTPP対策としての海外への企業進出動向や農業に関する分析



活用

企業・NPO、県内大学・高校、行政職員への普及・研修

1 企業、NPO、起業者等に対するRESAS等活用普及

- RESASの活用方法等について企業、NPO、起業者をはじめ広く県民に向けた研修会の開催
- RESASの操作方法、活用方法等について、講座を開催し分析等のスキルアップ

2 県内の大学・高校等の教育機関に対するRESAS等活用普及

- 県内の大学・高校等の教育機関において、出前講座等を開催し、RESASの概要、操作方法、活用方法等について研修

3 県および市町職員に対するRESAS等研修

- 県・市町職員に対して、RESASの最新機能の概要、他の自治体での活用事例等について報告・研修

「働く力」、「創る力」、「稼ぐ力」の向上を図り、滋賀の地域創生につなげる！！

文化プログラム歴史・文芸プレ事業 司馬遼太郎没後20年記念シンポジウム

資一総政2

文化振興課
内線3344

予算額 4,687千円

概要

- 「国民的作家」司馬遼太郎氏の「街道をゆく」は、司馬氏本人の「近江からはじめましょう」との発案で、「湖西のみち」から始まった。
- 平成28年2月に迎える司馬氏の没後20年を記念し、（公財）司馬遼太郎記念財団の全面協力のもと、「街道をゆく」の始まりの地、滋賀において、シンポジウムを開催。

ねらい

- 司馬遼太郎氏が強く魅かれた滋賀の発信、定着
- 「街道をゆく」をきっかけとする観光客のリピーター化
- 市町や大学、県など様々な主体が連携した地域資源の再認識と活用方法の確立

取組

- 「街道をゆく」の始まりの地、滋賀でのシンポジウム開催（米原市）
 - ・様々な主体による、参加者への「おもてなし」事業
 - ・司馬遼太郎氏の作品等から「地域のことをもっと知る」事業
- シンポジウム開催効果は今後の文化プログラムに活用し、地方創生につなぐ



市町や大学、県など
様々な主体が連携する取組体制の確立による
文化プログラムに向けた機運醸成

